

小中学生の「学校適応度」と「GIGA スクール適応度」の関係

The Relationship Between Elementary and Junior High School Students' "School Adaptability" and "GIGA School Adaptability"

水野 一成 近藤 勢津子
Kazunari Mizuno Kondo Setsuko

NTT ドコモ モバイル社会研究所
NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute

＜あらまし＞ 2024 年 11 月に実施した調査を基に、小中学生の学校適応度と GIGA スクール適応度との関連を分析した。その結果、両適応度の間には一定の相関が認められた。ただし、小学校高学年および中学生において、学校適応度が低いが GIGA スクール適応度が高い児童・生徒が約 2 割存在することが明らかとなった。本稿では、適応度の組み合わせに基づき、①両方の適応度が高い群、②学校適応度のみ高い群、③GIGA スクール適応度のみ高い群、④両方の適応度が低い群の 4 群に分類し、「学校の成績」「ICT スキル」「情報活用実践力」における差異について検討した。

＜キーワード＞ 学校適応度、小学生、中学生、GIGA スクール構想、定量調査

1. 研究背景及び目的

GIGA スクール構想は 2020 年に本格始動し、5 年が経過しようとしている。先行研究では、構想の進展に伴い、児童生徒の学習行動や情報活用能力に関する調査が蓄積されてきた。しかし、ICT 活用（適応）と学校適応度の関連を体系的に検討した研究は、いまだ十分とは言えない。本研究の目的は、学校への適応度と GIGA スクールへの適応度を併せて分析し、GIGA スクール構想に適応できている児童生徒は、学校にも適応しているのかを明らかにすることである。さらに、「学校の成績」「ICT スキル」「情報活用実践力」を指標として、学校適応度および GIGA スクール適応度の高低によって、児童生徒の特性にどのような差異がみられるかを検討する。

分析対象は、学校の授業で情報機器（スマートフォン、パソコン、タブレット）を使用した経験のある小中学生とした。なお、情報機器の利用率は、小学校低学年で 89.7%，高学年で 97.7%，中学生で 98.9% であった。

2. 調査概要

調査対象：2024 年 11 月
調査対象：全国、小中学生
調査方法：訪問留置法
標本抽出法：層化 2 段抽出法
性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数：1, 300 人
分析対象：学校の授業で情報機器を利用したことのある 1, 242 人

3. 分析方法

本研究では、以下の二段階の分析を行った。

- ① 適応度別の層化
学校適応度および GIGA スクール適応度について、調査結果を基に得点化、層化を行う
- ② 適応度別の特性
それぞれ「学校の成績」「情報活用実践力」「ICT スキル」を指標とし、適応度の高低による児童生徒の特性を比較する
- ③ 学校適応度と GIGA スクール適応度の関係性を確認し、特性を明らかにする。

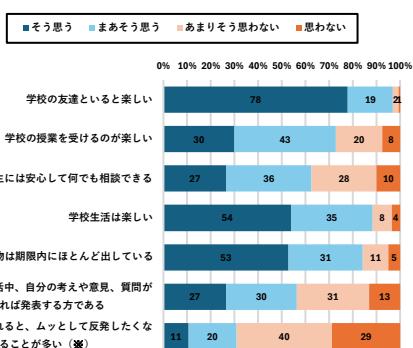
4. 分析結果

4.1. 学校適応

川崎や石田らが利用した「学校適応感尺度」から7問、4件法で調査した結果を用いた(図1)。その結果から、得点化(そう思う1点 ややそう思う2点 あまりそう思わない3点 そう思わない4点 計7点～28点)を行い、適応の得点により4つの層(高い・やや高い・やや低い・低い)に分けた。(図2)

4.2. 学校適応度 学年別傾向

図3で示す通り、学年が上がると、学校適応度は下がる傾向が見られた。



※逆転項目

図1 学校適応度

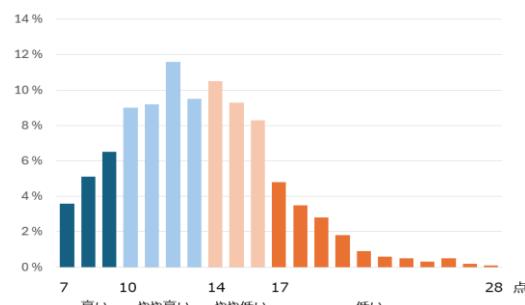


図2 学校適応度層別化

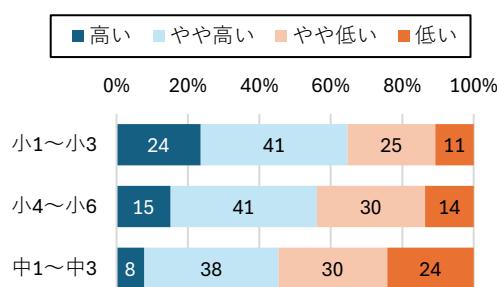


図3 学年別学校適応度

4.3. 学校適応度 学校の成績

学校での成績(自己申告)を5件法で調査した結果を基に3つのグループ(上位・やや上位を上位、中間、やや下位・下位を下位、答えたくないは集計から除外)に分け、学校適応度との相関を見た。その結果、学年間わざ有意に正の関係であった。

4.4. 学校適応度 ICTスキル

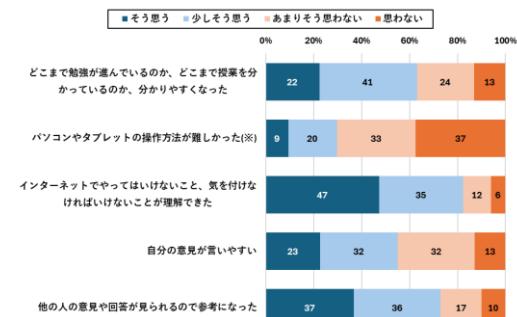
ICTに関するスキルを習得しているかを、14項目で調査し習得している個数により、高い、やや高い、やや低い、低いに分け、学校適応度との相関を見た。その結果、中学生のみ有意に正の関係であった。

4.5. 学校適応度 情報活用実践力

情報活用実践力については、高比良らが作成した「情報活用の実践力」の尺度の中から、下位概念(①収集力②判断力③表現力④処理力⑤創造力⑥発信・伝達力)よりそれぞれ2問を抜粋し、その結果を得点化し、高い・やや高い・やや低い・低いに分け、学校適応度との相関を見た。その結果、学年間わざ有意に正の関係であった。

5. 1 GIGAスクール適応度 学年別傾向

GIGAスクール構想の概念を基に、5問(4件法)で作成。(図4)。その結果から、得点化(そう思う1点 ややそう思う2点 あまりそう思わない3点 そう思わない4点 計5点～20点)を行い、適応の得点により4つの層(高い・やや高い・やや低い・低い)に分けた。(図5)



※逆転項目

図4 GIGAスクール適応度

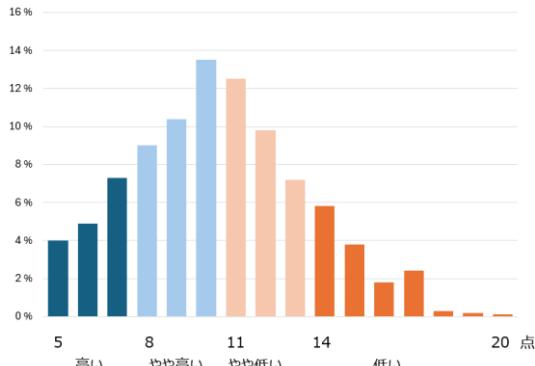


図5 GIGAスクール適応度層別化

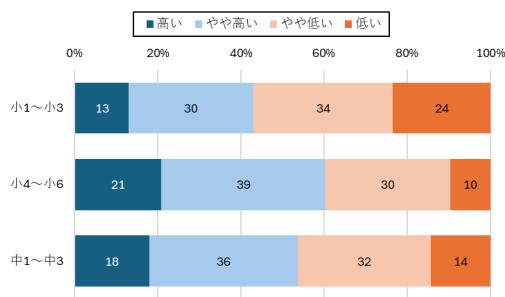


図6 学年別 GIGAスクール適応度

5. 2 GIGAスクール適応度 学年別傾向

図6の通り、GIGAスクール適応度は小学校高学年がやや高い傾向であった。

5. 3 GIGAスクール適応度 学校の成績

学校での成績とGIGAスクール適応の相関は学年問わず有意に正の関係であった。(表1)

5. 4 GIGAスクール適応度 ICTスキル

ICTスキルとGIGAスクール適応の相関は学年問わず有意に正の関係であった。(表1)

5. 5 GIGAスクール適応度 情報活用実践力

情報活用実践力とGIGAスクール適応の相関は学年問わず有意に正の関係であった。(表1)

5. 6 各適用度別特性

学校適応度とGIGAスクール適応度を合わせたのが表1である。学校の成績は学校適応との関係がより強い。ICTスキルと小学生の学校適応との相関は低い。情報活用能力は学年があがると学校適応との相関が高くな

表1 各適応と成績・ICTスキル・情報実践力の相関

| | 学校の成績 | | | ICTスキル | | | 情報活用実践力 | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|
| | 小低 | 小高 | 中学 | 全学年 | 小低 | 小高 | 中学 | 全学年 | 小低 | 小高 | 中学 | 全学年 |
| 学校適応 | .21** | .14** | .25** | .22** | 0.00 | -0.08 | .17** | -0.09** | .26** | .25** | .27** | .19** |
| GIGAスクール適応 | .15** | .12* | .14** | .13** | .30** | .12* | .11* | .20** | .27** | .25** | .17** | .26** |

**<0.01, *<0.05

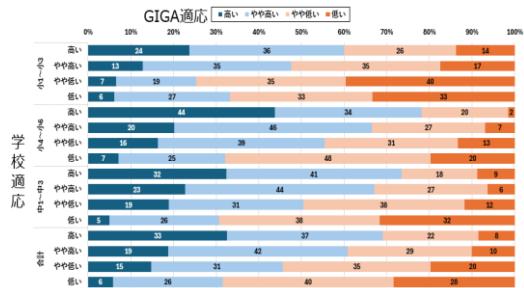


図7 学校適応度とGIGAスクール適応度

っている。

6. 1 GIGAスクール適応度 学年別傾向

図7に学校適応度とGIGAスクール適応度の関連を示す。学校適応度とGIGAスクール適応度の間の相関係数は小1～小3は0.27, 小4～小6は0.31, 中1～中3は0.33といずれも有意に正の関係であった。

6. 2 GIGAスクール適応度 学年別傾向

学校適応度とGIGAスクール適応度について、それぞれ「高い」「低い」に二分した（「高い」「やや高い」を「高い」、「低い」「やや低い」を「低い」と定義）。この分類に基づき、①両方とも適応度が高い群、②学校適応度のみ高い群、③GIGAスクール適応度のみ高い群、④両方とも低い群の4群に分け、学年別の構成比を示したものが図8である。先述のとおり、両適応度には一定の相関が認められ、①両方高い群と④両方低い群を合わせると約6割を占めた。また、学校適応度のみ高い群は低学年ほど割合が高く、GIGAスクール適応度のみ高い群は高学年になるほど構成比が高くなる傾向がみられた。

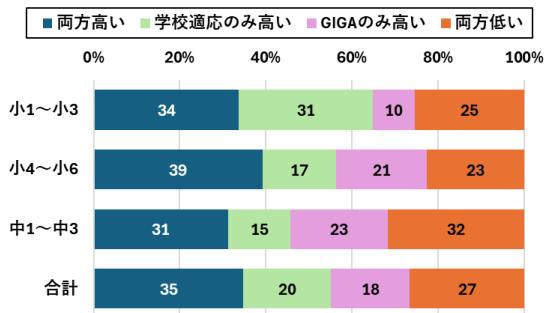


図8 学校適応度とGIGAスクール適応度

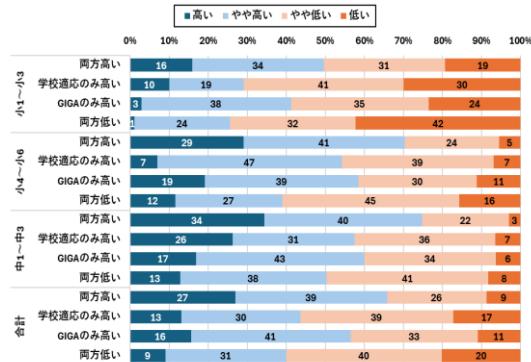


図11 学校・GIGA適応度と情報活用実践力

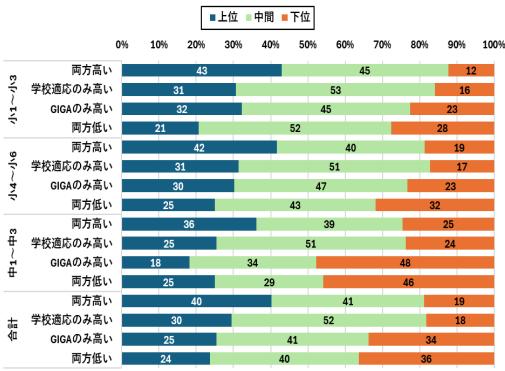


図9 学校・GIGA適応度と学校の成績

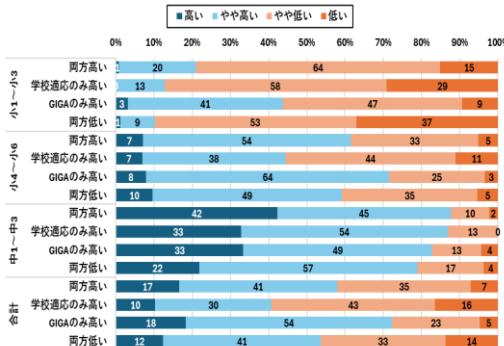


図10 学校・GIGA適応度とICTスキル

6.3 適用度別特性

学校の成績との関連は、学年が上がると学校適応が高いと上位の傾向が強くなる(図9)。

小学生はGIGAスクール適応が高いと、中学生は学校適応・GIGAスクール適応両方高いとICTスキルが高い(図10)。

小学生はGIGAが高いと、中学生は学校・GIGA両方高いと情報活用実践力が高い(図11)。

7.まとめ(結論)

学校適応度とGIGAスクール適応度の間に一定の関連が認められたが、小学校高学年および中学生では、学校適応度が低い一方でGIGAスクール適応度が高い群が約2割存在することが確認された。これは、学校生活には十分に適応できない児童生徒であっても、GIGAスクールを通じて学習(学習を起点とした対人関係を含む)に前向きに取り組める層が新たに形成されている可能性を示唆している。

8.参考文献

GIGAスクール構想概要 文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00011111.htm (参考日 2025.11.12)

石田(2009)学校適応感尺度の作成と信頼性、妥当性の検討、愛知教育大学紀要

川崎(2018)中学校生徒の不安と学校適用状況との関係、千葉商大紀要 第55巻 第2号

高比良美詠子、坂元章、森津太子(2001)情報活用の実践力尺度の作成と信頼性および妥当性の検討、日本教育工学会 24(4), 247-256

水野一成、近藤勢津子、吉良文夫(2024)小中学生のICTスキルの類型化、日本教育工学会研究報告集、2024(1):130-133.